

事務事業評価シート（評価実施年度：平成27年度）

上位の施策名称	施策Ⅲ-4-5 環境保全の推進
---------	-----------------

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	産業振興課長 馬庭 正人	電話番号	0852-22-5291
----------	--------------	------	--------------

事務事業の名称	資源循環型技術経営支援事業		
目的	(1) 対象	県内排出事業者等	
	(2) 意図	産業廃棄物の発生抑制に向けた研究開発を支援し、事業化に結びつける	
事業概要	産業廃棄物の発生の抑制・減量化又は再利用・再生利用に関する研究開発を促進するため、県内の排出事業者等が行う研究開発事業への助成や、産業技術センターが技術や製品化に向けた基礎研究を行う。		

2. 成果参考指標

(1) 成果参考指標	指標名	採択された技術を活用して、製造または販売を展開した件数 [平成17年度からの累計]	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
	式・定義	採択された技術を活用して、製造または販売を展開した件数 [平成17年度からの累計]	目標値		5.00	6.00	7.00	8.00	件
			実績値	4.00	4.00	4.00	4.00		
			達成率		80.00	66.70	57.20	%	
	指標名		年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
	式・定義		目標値		0.00	0.00			
実績値			0.00	0.00	0.00				
達成率				0.00	0.00		%		

3. 事業費

	26年度実績	27年度計画
事業費 (b) (千円)	44,000	40,000
うち一般財源 (千円)	0	0

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

平成26年度：助成実績1件（平成25年度：助成実績2件）  
 産業廃棄物を利用した新規研究開発に取り組む事業者が少ない。  
 また、研究開発から事業化へ向かうことには時間がかかり、新規製造・販売を行う件数も伸び悩んでいる。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

産業技術センターにおいては、県内企業への技術移転をめざし、研究開発を行っている。平成26年度も産業技術センターとの連携から新たに産業廃棄物を利用した新製品の開発を行った事業者があった。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

- ①困っている「状況」  
産業廃棄物を利用した新規研究開発に向かう事業者が少ない。研究開発から事業化に至るまでには時間がかかる。
- ②困っている状況が発生している「原因」  
事業者においては人手が不足しており、産業廃棄物を利用した新製品の開発を開始することが難しい。製品化をするにはコスト等の問題がある。
- ③原因を解消するための「課題」  
産業技術センターにおける市場ニーズの把握を元にした新たな研究課題の検討。コスト削減等を図るため、県内事業者等と産業技術センターとの更なる連携。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

事業化への可能性を高めるため、産業技術センターにおいて新たな研究課題の検討と本研究に入る前に可能性試験を実施し、事業化可能性を探る。また、商工団体や産業振興財団、金融機関とも連携して事業化や新規研究開発に取り組む事業者を支援していく。

◎課（室）内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

◎上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）